

けいはんなオープンラボ研究推進協議会  
第2回ヒューマンコミュニケーション分科会 議事録 (案)

日時： 平成16年4月21日(水) 13:00~14:30  
場所： 情報通信研究機構けいはんなセンター大画面実験室

出席者(順不同, 敬称略):

木戸出(分科会リーダー, 奈良先端大),  
中井(WG主査, 沖電気), 丸野(WG主査, 松下), 柿元(WG主査, 富士通研),  
佐藤(CSK), 大倉(三洋電機), 柏谷(NEC) 中川(松下), 伊藤(三菱電機),  
大橋(マイクロシグナル), 上島(原研), 中子(アドバンスコープ),  
廣岡(アドバンスコープ), 土井(東芝), 福留(とめ研究所),  
大西(SCAT), 中山(NICT), 山崎(NICT), 熊本(NICT), 白土(NICT)

配布資料:

資料 HC-2-1 第1回ヒューマンコミュニケーション分科会議事録  
資料 HC-2-2 協議会の体制図  
資料 HC-2-3 協議会会員名簿  
資料 HC-2-4 ヒューマンコミュニケーション分科会, WG名簿  
資料 HC-2-5 コンテンツ融合環境プロジェクト報告  
資料 HC-2-6 コンテンツ融合環境WG報告  
資料 HC-2-7 ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト報告  
資料 HC-2-8 ユニバーサルユーザ利用環境WG報告  
資料 HC-2-9 言語情報活用システムプロジェクト報告  
資料 HC-2-10 言語情報活用システムWG報告  
資料 HC-2-11 実験ルーム紹介  
資料 HC-2-12 分科会活動の展開

議事概要

(1) リーダーご挨拶

木戸出リーダーより, 今年度の活動として, 国際フォーラムを秋に北京で開催する計画などについて説明があった。

(2) 事務局報告(資料 HC-2-1~4)

第1回ヒューマンコミュニケーション分科会議事録について事務局から提案があり, 了承された。また協議会, HC分科会の最新名簿について事務局から報告された。

(3) プロジェクト進捗状況, 今後の計画

質疑応答(Q:質問, A:回答, C:コメント)

(3-1) コンテンツ融合環境プロジェクト報告(資料 HC-2-5)

Q:土井) 9つのプロジェクトがあるが, 中国にはこの全てについて共同研究のアプローチするのか?

A:熊本) 中国側の興味を把握しながらプロジェクトを絞って実施したい。

Q:木戸出) 企業からの参加メンバは各プロジェクト1名づつか?

A:熊本) プロジェクトによるが, 大体1名から数名の参加となっている

# コンテンツ融合環境WG報告は資料のみ(資料 HC-2-6)

(3-2) ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト報告(資料 HC-2-7)

Q:福留) 契約の状況は?

A:山崎) 現在詰め段階にあるものを含め, 計3つ。

(3-3) ユニバーサルユーザ利用環境WG報告 (資料 HC-2-8)

C:木戸出)NICT への提言として、「ユビキタスホームにこんな機能があればいいな」等の要望をどんどんだして欲しい。

Q:木戸出) これに関連し、今後のいろいろな要望に応じて、ユビキタスホームの改造などは柔軟に行なえるか？

A:山崎) YES.

(3-4) 言語情報活用システムプロジェクト報告 (資料 HC-2-9)

Q:木戸出) NICT 側からの参加メンバ数は？

A:白土) 各プロジェクト1, 2名. プロジェクト全部で3~5名.

(3-5) 言語情報活用システムWG報告 (資料 HC-2-10)

(質疑なし)

(4) 実験ルーム紹介 (資料 HC-2-11)

Q:中井) カメラなどセンサーからの情報はどこで見られるのか？

A:山崎) 図中の **Network Operating Center** に情報を集約.

Q:中井) 実際に住んで実験する計画は？

A:山崎) その予定.

(5) 部会資料の検討 (資料 HC-2-12)

資料 HC-2-5~11 については、原案通り部会に提案することが了承された。

また、木戸出リーダーより、部会への資料として、関西次世代ロボット協議会との活動連携について、及びホームページの整備に関する要望が提案された。議論の結果、資料 HC-2-12 のうちホームページに関するの要望についてのみ部会を提案することとして了承された。

(6) その他

Q:土井) 異なる WG やプロジェクト間の連携によるメリットを含め、HC 分科会全体としての方向性を

より明確にすべきではないか？

A:木戸出) 当該研究分野においては、方向性も含め、自由な発想で柔軟に対処すべきと考える。

以上